

事業名 福島社会イノベーション創造事業

採択大学等名

早稲田大学

連携市町村名

広野町

取組概要(目的)

長期的・広域的な観点から福島における復興と廃炉に関する調査研究を、地域社会などの皆さんと協働して実施し、復興と廃炉の将来像の選択肢を広く社会へ提案し、2050年に持続可能な福島浜通り地域社会の形成を目標とした**社会イノベーション(社会変革)を創造**する。

市町村/各種団体との連携体制の構築

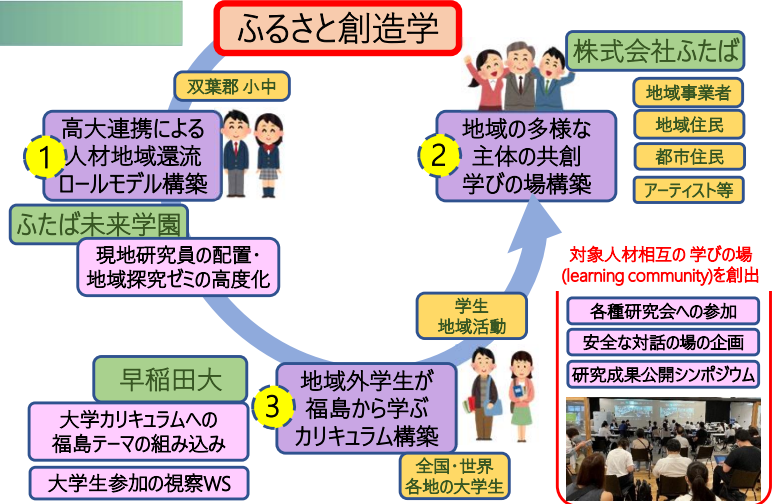
- ・ 広野町とともに**浜通りの長期的・広域的観点からの復興**の横展開
- ・ 双葉地方町村会および被災15市町村など周辺自治体との連携
- ・ 研究会メンバーの所属機関やふたば未来学園、地域団体との連携
- ・ 将来人材育成のためのふたば未来学園との連携強化
- ・ 復興庁福島再生総局、経済産業省資源エネルギー庁などとの連携

めざすべき人材像と5年間の人材育成目標

福島を教訓を踏まえて、継続的に福島の課題を「自分ごと」ととらえ、科学技術と社会の関わりについてのイノベーションを起こす人材を育成する。
トランスサイエンスを対象とした対話の実践、自分ごと化のプロセスを重視する。



ふるさと創造学



①～③のカリキュラム連携により、**一貫した“ふるさと創造”への思いを持続的な学びに活かすプラットフォーム**を構築する。

これまでの成果

連携体制の拡大

自治体連携を広野町に加え、富岡町に拡大すべく調整している。(本年度中に協定締結見込み)
①の主体となる「ふたば未来学園」に加え、②の主体となる「株式会社ふたば」と連携協定を結んだ。

研究会活動と対話の場の構築

3つの研究会と付随する2つの地域対話、総合的な対話の場、学生ワークショップを実施した。

1F廃炉の先研究会

1F 地域塾

福島第一原発(1F)廃炉プロセスの地域資源化と1F廃炉の将来像の多様な選択肢に関する研究 併行して対話の場「1F地域塾」を設定

- ・ 研究会ではデブリの取り出し、耐震性の課題、住民対話手法の学びと議論を行った。
- ・ 地域塾では処理水問題、中間貯蔵施設などをテーマに多世代多様主体の対話を行った。
- ・ 研究会における専門的議論と地域における対話を併走させて実施した。

創造的復興研究会

福島再生塾(仮)

2050年の福島浜通り地域社会像・1Fの世界遺産(文化遺産)登録・創造的復興モデルに関する研究 併行して対話の場「福島再生塾」を新設

国際芸術・学術拠点構想(A&S)研究会

原子力災害の記録・知識・記憶と教訓を未来世代への継承、福島を教訓を踏まえた文化芸術と科学・学術研究の新たな「知の拠点」の形成
※現在は創造的復興研究会と一体的に運営

- ・ 発電所の立地と地域経済の研究を通じて、浜通りの産業集積のあり方を議論した。
- ・ 被災者のヒアリングを通じて、13年経った地域の変遷や課題意識を分析した。
- ・ 地域の本来的復興と主体形成を考える「福島再生塾(仮)」の設立準備を行った。

ふくしま学(楽)会

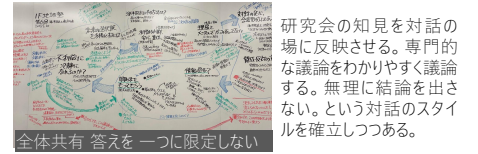
多様な専門家(行政も含め)と多様な市民(住民)による「対話の場」の構築、専門知と地域知の出会いを創出

- ・ 7月は「浜通りで働くということ」と題して、地域で活躍する事業者を招聘、議論を行った。
- ・ 本年度は1月にも実施予定、これまでの総決算的な会合とすべく計画している。

大学生によるエコミュージアム構想

福島関連授業に参加した大学生の視察と多世代対話の実践を通じた「自分ごと化」のWS

- ・ 発電所や中間貯蔵エリアなどを訪問し、現地での対話の機会を2回設定した。
- ・ 学生が主体的に、浜通りの未来、原子力災害の教訓・発信について議論を深める場となった。



本年度の創造的復興研究会は、研究メンバーによる調査と議論が中心となったが、13年で大きく変わった地域の形と、変わらない人々の思いを集積することができた。



関連授業を入口として、多様な学部が参加してのWSを開催 授業⇒現物を見る⇒体験を聞く⇒同世代との対話を経て自分ごと化する。講師陣も地域の協力者が充実してきた。

事業終了時点の成果及びその後の見通し

- ・ “ふるさと創造学”のプラットフォームを継続運営するため、地域における課題解決研究を維持し、そこへの高校生や様々な世代が参加可能な対話の場、学びの場を維持・継続する。**←対象人材相互の学びの場(learning community)を創出しこれを成果として残す。**
- ・ **補助期間内に複数のロールモデルを構築**することで、ふたば未来学園から本学への進学実績を積み重ね、本学の推薦枠での生徒の受入を実現する。
- ・ 復興知終了後、大学研究者との連携する最低限の予算に関しては、連携関係を構築した「ふたば未来学園」「株式会社ふたば」の予算として確保することをめざす。
- ・ 域外の学生の参加カリキュラムに関しては、自立的に運営できる枠組みを構築する。**←学生の旅費等を補助する継続的民間企業資金を確保。**